

どくしょ応援団

マンガ アダルト
YAのための
Book Surfing

ブックサーフィン



学生や生徒でいられる時期は
すく通り過ぎて、その先には仕
事の世界が待っています。で
も、ちよつと辺りを見回せば、
景気や雇用に関する暗いニュー
スばかりで、この社会や自分は
どうなっちゃうんだろうって、
怖くなってしましますよね。不
安や恐怖だけだと身動きとれな
くなるし、逆に自分だけは大丈
夫なはずって、カラ元氣を出し

仕事で困る前に

本田 由紀 東京大学教授(教育社会学)



て突っ張ってみても、あれよあ
れよと言つ間に現実に裏切られ
てしまうかもしれません。
だったら、備えあれば憂いな
しつてことで、仕事で困つたら
どうしたらいいかを超わかりや
すく書いてある本から……。

POSSEという若い人メー
ンのNPOの代表である今野晴
貴さんが書いた『マジで使える
労働法』(イースト・プレス)
は、タイトルそのまんま、職場
でサービスマンやパワハラ・セ
クハラがひどかったり、辞める
ことを促されたりしたときの対
処策を、具体的かつコミカルに
教えてくれます。しかも、「ひ
どい目にあつたときに負けない
ことが、社会全体をよくしてい
くん」だ、っていう考え方の太い
芯が一本通っています。

そうして背筋が伸びたところ
で、他のみんなはどんな働き方
をしているのか、その現実も見
つめておきたいくなります。『ノ
ンエリート青年の社会空間』
(中西新太郎・高山智樹編、大
月書店)という本では、自転車
メッセンジャー、引越越し作業
員、製造請負労働者、専門学校
卒業生、高卒女性といった人々
の働き方や暮らし方、気持ち
が克明に描き出されています。彼
らは自分たちなりに「なんとか
やってゆく」世界を作り出して
いて、その世界で重要なのは、
職場や地元での仲間や家族の存
在であることがわかります。

皆さんの「新しい労働社会」(岩
波新書)がお薦めです。日本型
雇用の本質とは何か、それがど
うしてうまくいかなかったとい
るのか、じゃあどんな仕組みが
必要なのか、説明してくれてい
ます。「産業民主主義」「集団
的合意形成」って、言葉は難し
いけど、要するに、仲間と支え
あいながらきちんと話し合うこ
とが大事っていうことですか
ら、上の2冊とやっぱり重なっ
てくるところがあるんです。
スピッツの「君は太陽」とい
う歌の中に、「理想の世界じゃ
ないけど大丈夫そうなんだ」と
いう歌詞があります。ほんとに
そうだといいし、そうなるよう
にみんなできていかなきゃね。

